

番号	6	令和4年度公共事業事後評価調書		担当課名[道路整備課]
事業名	道路改良事業		事業主体	静岡県
箇所名	一般国道362号 青部バイパス (青部 榎原郡川根本町元藤川～青部)		市町名	川根本町
事業概要				
事業の目的 ・必要性	当該区間の国道362号は、中山間地特有のカーブの連続する道路であるとともに、普通車同士のすれ違いが困難な区間もあるため、観光シーズンを中心に渋滞を引き起こしている。また、降雨による事前通行規制区間や道路防災総点検の要対策箇所があるため、防災上の観点からも早期のバイパス整備が必要不可欠である。			
事業量	計画概要：全体計画延長 1,194m (道路工635m、トンネル工326m (1箇所)、橋梁工233m) 計画幅員 車道6.5 (全幅10.25m) 2車線バイパス (片側歩道)			
施設の利用状況や被害軽減効果 等				
当初 または 前回	事業費 3,900百万円	事業期間 平成16年度～平成29年度	施設の利用状況や被害軽減効果 等 川根本町元藤川～同町青部間の所要時間 7分→2分 (5分短縮)	B/C : 1.1 EIRR : -
事後	事業費 4,374百万円	事業期間 平成16年度～平成29年度	施設の利用状況や被害軽減効果 等 川根本町元藤川～同町青部間の所要時間 7分→2分 (5分短縮)	
差	事業費 事業費が474百万円増加 (12.2%増)	事業期間 変更なし	施設の利用状況や被害軽減効果 等 計画通り事業効果が発現している	
<p>■事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> トンネル工事にて、掘削土から重金属 (ヒ素) が検出され、追加対策及び残土処分地の変更が必要となった。 また、トンネル掘削終了点部において、想定と異なる地質状況であったため、崩落を防ぐための補助工法の追加が必要となったことから、事業費が増加した。 <p>■事業効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般国道362号青部バイパスの整備により、旧道からバイパスへ交通の転換が図られ、安全で円滑な交通が確保された。 また、狭隘区間の解消により観光シーズンの片側交互通行規制が不要となり、渋滞が緩和された。 <p>(供用前) (供用後見込) (供用後現状) 現道：7分 B P：2分 B P：2分</p>				
事業の効果の発現状況				
<p>(1) 災害に強い道路ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 防災上の要対策箇所をバイパスにより回避し、災害に強い道路ネットワークを構築 要対策箇所：【開通前】6箇所 → 【開通後】0箇所 雨量による事前通行規制区間 (連続雨量150mm) の回避 <p>(2) 安全で円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 狭隘区間をバイパス化することによる交通の円滑化 【開通前】7.2分 → 【開通後】1.8分：約5分短縮 <p>(3) 施設間のアクセス性向上による観光活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 川根本町観光施設入込客数の推移 【開通前】544,202人/年 (平成16年度) → 【開通後】597,155人/年 (平成30年度※) ※令和元年度以降の観光客数は、新型コロナウイルスによる影響で大きく減少しているため、平成30年度を参照 観光シーズンの片側交互通行規制 【開通前】概ね20日間/年 (平均値) → 【開通後】0日間/年 (平成30年度以降) 				

事業実施による環境の変化

■沿道の待機環境変化

本事業による周辺大気環境の改善効果を試算すると以下の通りとなる。

(いずれも、令和12年時点の(国)362号青部バイパスの整備あり/なしでの比較)

- ・ CO2 (二酸化炭素) 削減量：670 t-CO2/年 → 216 t-CO2/年 (-454 t-CO2/年 削減率 67.8%)
- ・ Nox (窒素酸化物) 削減量：1.44 t-Nox/年 → 0.37 t-Nox/年 (-1.07 t-Nox/年 削減率 74.3%)
- ・ SPM (浮遊粒子状物質) 削減量：0.08 t-SPM/年 → 0.02 t-SPM/年 (-0.06 t-SPM/年 削減率 75.0%)

事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域社会の動向

- ・ 川根本町の人口が減少傾向にある中、町内の自動車等保有率は増加傾向
- ・ 川根本町においては、立地的に自動車等に対する依存度が高く、道路整備の重要度が高い

(2) 周辺道路整備によるネットワークの構築

- ・ 令和3年8月に中部横断自動車道が全線開通し、山梨県から静岡県への移動時間が短縮
- ・ 当該区間の東側で一般国道362号本川根静岡バイパスの整備を推進中

(3) 地域産業の活性化

- ・ 平成26年6月に川根本町を含む南アルプス地域がユネスコエコパークに登録されたことで観光客数が増え、今後も増加が見込まれる

対応方針 (案)

(1) 対応方針 (案)

事業効果は十分に発現しており改善措置の必要はない。

- ・ 防災上の要対策箇所がバイパスにより回避され、災害に強い道路ネットワークが構築された。
- ・ 狭隘区間及び屈曲部が解消されたことにより、安全で円滑な交通が確保された。
- ・ 観光施設間のアクセス時間が短縮され、利便性が向上した。
- ・ 観光シーズンの片側交互通行規制が不要となり渋滞が緩和された。

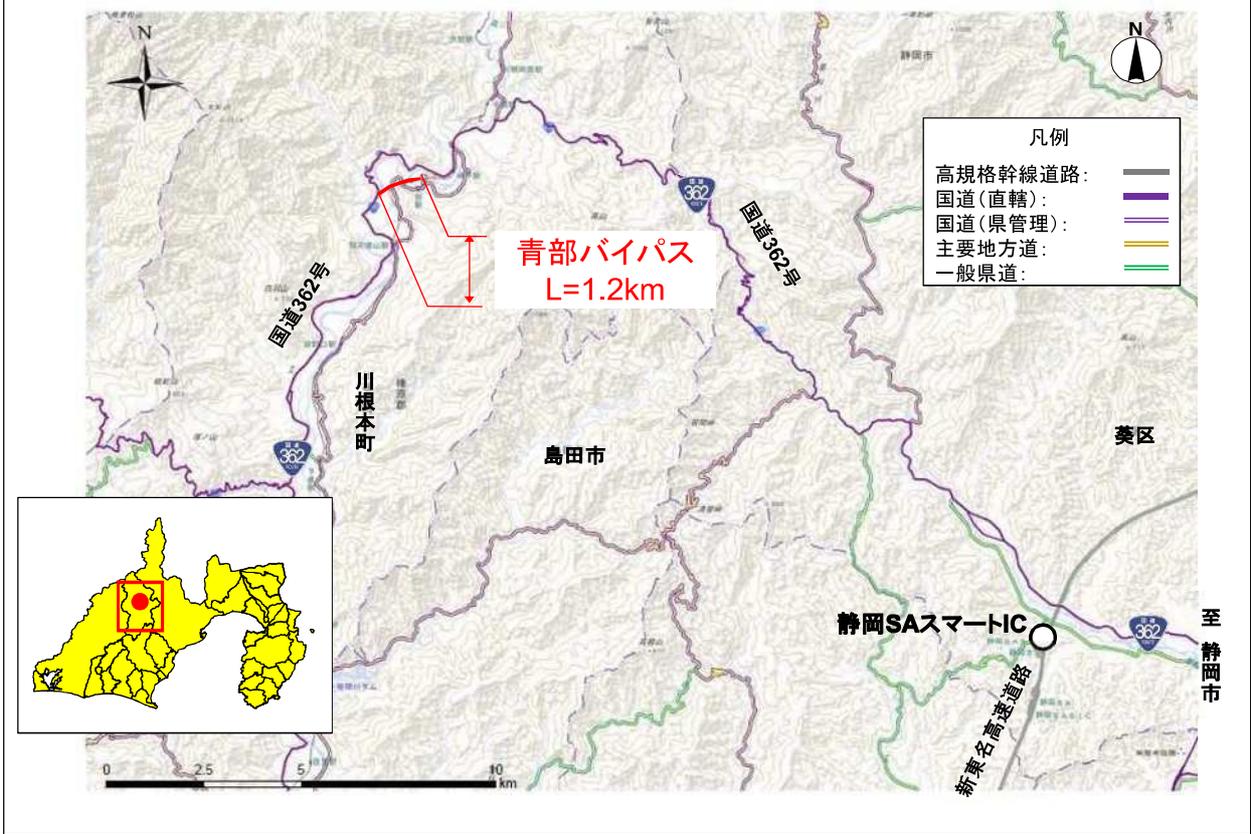
(2) 今後の課題・対応

- ・ 狭あい区間や屈曲部等が点在する一般国道362号の道路整備を引き続き着実に進め、地域内交通や産業交通、観光交通等のネットワークの強化を図る。
- ・ 周辺地域の利便性向上等、整備後に現れた効果について、積極的な広報に取り組む。

(3) 同種事業への反映等

- ・ バイパスの新設区間を交差点間で部分供用させるなど、事業効果を効果的かつ早期に発揮できるような取り組みを行った。

事業箇所位置図



事業概要

- | | |
|---|--|
| 【計画内容】
・事業延長: 1,194m
・車線数: 2車線 | ・事業期間: 平成16年度～平成29年度
・道路幅員: 車道6.5(全幅10.25)m
・全体事業費: 44億円 |
|---|--|



■ 前回からの変更点・理由

	前回	事後	主な変更理由
①計画期間	H16～H29	H16～H29 (変更なし)	-
②全体事業費	3,900百万円	4,374百万円 (474百万円増加)	・トンネル工事で発生した重金属を含む残土の対策費

災害に強い道路ネットワークの構築

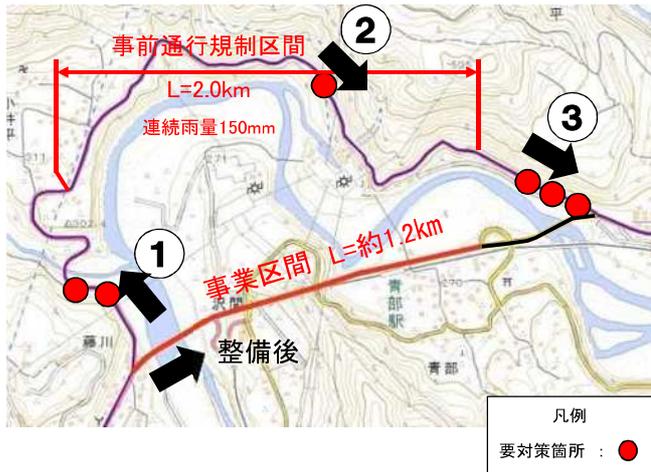
写真①



写真②



写真③



<整備後>



安全で円滑な交通の確保

現道区間(整備前)

写真①



写真②



バイパス区間(整備後)

写真③



写真④



高規格幹線道路:	——
国道(直轄):	——
国道(県管理):	——
主要地方道:	——
一般県道:	——

狭隘かつ線形不良区間の解消により、安全で円滑な交通が確保される

対応方針（案）

（1）対応方針（案）

事業効果は十分に発現しており改善措置の必要はない。

- ・防災上の要対策箇所がバイパスにより回避され、災害に強い道路ネットワークを構築した。
- ・狭隘区間及び屈曲部が解消されたことにより、安全で円滑な交通が確保された。
- ・観光施設間のアクセス時間が短縮され、利便性が向上した。
- ・観光シーズンの片側交互通行規制による渋滞が緩和された。

（2）今後の課題・対応

- ・狭あい区間や屈曲部等が点在する一般国道362号の道路整備を引き続き着実に進め、地域内交通や産業交通、観光交通等のネットワークの強化を図る。
- ・周辺地域の利便性向上等、整備後に現れた効果について、積極的な広報に取り組む。

（3）同種事業への反映等

- ・バイパスの新設区間を交差点間で部分供用させるなど、事業効果を効果的かつ早期に発揮できるような取り組みを行った。